

今
週
の
み
こ
と
ば

「新しい酒は新しい皮袋に」

(マルコの福音書2章19節～22節)

「また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、ぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒も皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるのです」(2:22)

仲森文穩

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

○イエス様は、「あなたの弟子たちはなぜ断食しないのか」と尋ねられた時、「花婿と一緒にのに婚礼の客は断食できるだろうか」と答えられました。花婿とはイエス様のことでしょうから、弟子たちが断食しない理由は、イエス様が共におられることにあります。でも花婿が奪い取られる時には、弟子たちも悲しみ、断食することになるとイエス様は仰っています。このお言葉から察するに、断食は、悲しい時、罪を悔い改める目的で行われていたようです。確かに旧約聖書では、そうした断食を行う大勢の人々に出会います。律法にも断食規定はありますが、年に一回、贖罪日に行えとあるのみです。これがバビロン捕囚の頃からか、みんな断食する回数が年に5回くらいに増えていきます。

そして、イエス様の時代には、断食は、祈りや施しと並ぶ信仰の三徳の一つに数えられ、ファリサイ派の人たちは1週間に2度、月曜日と木曜日に断食を行うようになっていました。本来の目的である悲しみや悔い改めとは関係なく、信仰深い自分を見せるために行うようになっていました。

また、贖罪日に断食せよと規定されていましたが、イエス様が完全な形で私たちの贖罪を成し遂げられた以上、もはや罪を悲しむ断食も必要なくなる訳ですね。花婿キリストが喜びへと私たちを招いておられるのに、断食中だと悲しい顔をしている訳にはいかない。そういう理由で、イエス様は弟子たちに断食を奨励しなかったのではないのでしょうか。

○このイエス様の招きにどう応えるべきか、を示すのが二つのたとえ話です。21節の「真新しい布切れで古い着物の継ぎをすれば、破れはもっとひどくなる」というたとえも、22節の「新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるなら、ぶどう酒は皮袋を張り裂き、どちらもだめになってしまう」というたとえも、同じことを言っています。イエス様の教えは、ユダヤ教の常識や価値観では受け止めきれないほどの生命力にあふれていました。この断食問答においては、新しい救いはキリストにある、という真理が語られているのです。しかし、ユダヤ教の枠内で生きる人々にとっては、イエス様のもたらす万民救済の教えは迷惑千万でした。ですから十字架へと追いやったのです。しかし、その十字架すらも神様の救いのご計画の一環だったのです。

今日はアドベント待降節の第2週目です。世界の各地で戦争が続けられ、心も暗くなりがちですが、しかしキリストの生ける命を注がれた者として、暗い世界を光で照らすためにおいでになった平和の主の誕生、クリスマス我希望をもって待ち望みたく願うものであります。